

# 投稿論文作成に向けて

## Q & A集

2015年11月

NPO 法人日本交流分析協会  
論文審査委員会

交流分析で学んだことを日々実践で生かされていることと思います。活動を通じて体得されたことを、論文というあなたの形ある知的財産にしませんか？ 「論文を書くには、」「投稿論文に応募するには、」どうすればいいのだろう、と思っている会員諸氏の質問にお答えします。

**① 論文を書く最初の一步はどうすればいいのですか？**

支部ごとにきめの細かい指導をしていただくようお願いしているところです。まずは、各支部の「活動報告集」に投稿することで、論文作成に慣れていただくとともに支部の指導を受けるとよいと思います。

**② テーマはどのように探せばいいのですか？**

最初から“論文ありき”でお考えになると難しくなります。日常活動のメモ・記録を取ることから始めることで、日ごろから興味をもっていることが意識化されたり、活動しているなかで、確認（検証）したいことや明らかにしたいこと、発見したことなどが湧き出てくるはずです。これらがテーマとなります。

**③ 支部ではどのような援助をしてもらえますか？**

今後は、各支部に、報告のまとめかたや論文の書き方を逐次指導していくようなシステムを考えていただくようお願いしています。すでに投稿論文を書かれた方の体験も生かしていただけるはずです。

**④ 文献はどのように探せばいいのですか？**

学術雑誌やインターネット検索などで参照した論文の末尾に、引用・参考文献（著書・論文）が掲載されていますので、参照してください。参考書だけでなく、最新の論文を閲覧することでどのような研究がなされているか把握することができます。また、研究方法や論文の書き方についてもたいへん参考になります。

**⑤ 支部に提出した活動報告に書き加えただけのものは二重投稿になりますか？**

活動報告に新たな知見や考察を加えてブラッシュアップしたものへ加筆・訂正される場合は二重投稿にはなりません。同じ報告をそのまま投稿することは避けてください。いくつかの活動報告を総合的にまとめ直すことなども可能です。

**⑥ 投稿する際、どうして投稿料を支払うのですか？**

投稿料は『TA 実践研究』に投稿された論文に対する、主として査読のための費用になります。理工学系、心理学系等、何処の学会でも査読の為の費用は掛かります。当協会でも、査読者に謝金としてお支払しております。実際には2名の査読者が数回、提出論文を読まれます。

**⑦ 投稿の締切タイミングは、どのように決まっているのですか？**

『TA 実践研究』は、5月の「JTAAnews」に同封することになっているため、遡って、前年の6月30日が締切りになっています（1回目）。査読や修正に時間を取ってはいますが、さらに十分な時間を確保して論文を書きあげたいと思う方のために、前々年度の12月10日にも2回目の締切日を設けています。年2回設けることにより、投稿しやすくなると考えています。年間2回となっておりますので、スケジュールをご覧ください。

**⑧ 投稿論文集と支部発行の実践報告集はどう違うのですか？**

投稿論文集は、査読（審査）にかかる論文を集めたもので、必ず論文としての形式を踏んでいる必要があります。論文では、新たな知見や、より一般性のある理論構築・考察が加わるなどで、後継研究者に有用なものである必要があると考えられます。

必ずしも論文としての形式をとらなくても有効です。実践報告集でまとめたものを土台に研究テーマを決め、論文を練っていく感じです。実践報告は、活動の報告や文献のまとめ、実験結果のレポートであってよいと考えますが、まず、実践報告集に出して頂き、出すことで色々ご意見を頂けますので次のステップではそういった意見を踏まえ、一般化して投稿論文に出して頂ければと思います。

⑨ 書いている途中で、アドバイスが欲しい時はどうすればいいですか？

各支部の論文支援担当者に聞いたり、アドバイスをしてくれる方を紹介してもらったり、相談してみてください。専任の委員がおりませんので、各支部にて指導をお願いしたいと思います。各支部の支部長、あるいは、実践報告集を担当している方に相談して下さい。なお、全体的なアドバイスは専門性向上委員会が開催するセッションなどに参加されたときに受けられるとよいでしょう。

⑩ 交流分析理論をさらに踏み込んで教えて欲しい時はどうしたらいいですか？

各支部にて、会員指導セッションや交流分析士上級者に相談して、指導をお願いしてください。ただ、原則論として、理論深耕は基本的には自己啓発・自己学習の範囲であることを忘れずに日頃から努力したいものです。

⑪ 論文に使うエゴグラムはどれがいいですか？

使用目的によっては、どのエゴグラムを使用しても良い場合がありますが、TEG や SGE など信頼性・妥当性が検証された質問紙を使用することで、論文の信用性・妥当性も高まるということも念頭に置いてください。論文の文献には、使用した質問紙を明記してください。

⑫ 「査読」とは、何のことですか？

査読とは、第三者である覆面の査読者が投稿論文について、論文としての形態を成しているか、論文の目的が明確に示され方法・結果・考察・結論が正しく導かれているかなどの視点で評価することを指しています。その際、より良い論文を目指すために、あくまでも査読者からの提案事項として投稿者に検討してもらうことを趣意としています。また、必要経費として「査読料」をいただいております。

⑬ 査読はどのように行われるのですか？

教授・准教授の中から査読依頼をして引き受けてくれた方に査読をお願いしています。1つの論文に複数の査読者（1名は責任査読者【主査】）を配し、責任査読者は査読者間の意見に矛盾がないかチェックし、まとめています。また、協会では論文の判定基準を定めており、そのチェック項目に沿って内容を審査しています。

主査、副査の2名の査読者により行われ、各々の査読結果を主査（責任査読者）がまとめた上で、査読結果通知としてお知らせします。

⑭ 投稿論文の採択・不採択はどのようにして決まるのですか？

複数の査読者による査読の結果、協会の論文判定基準と全体評価を勘案し、「採択」・「修正

採択」・「修正再審査」・「不採択」が決まります。複数の査読者が目を通すことで、恣意性や見落としを減らすようにしています。

また、最終的に採択となるよう、なるべく具体的なアドバイスを心掛けています。

論文審査委員会で2名の結果を取りまとめて最終決定を確認して執筆者にお知らせしています。

**⑮ 査読者から戻ってきた査読結果が「採択」以外の結果だったら、どうするのですか？**

「採択」以外に「修正採択」・「修正再審査」・「不採択」の3種類の判定があります。

「修正採択」は、論文の修正が比較的少ないもので、投稿者が修正を受け入れて修正原稿を送っていただければ、ほぼ「採択」になります。「修正再審査」は、投稿者が修正した原稿を再査読して進めます。査読者としては、可能な限り投稿者にアドバイスをする方向で考えてもらいますが、残念ながら、『TA 実践研究』に掲載するには、まだ修正の余地があると考えた場合は、次回へのチャレンジにつながるような提案をさせていただきます。

査読者は、なぜ採択以外となったかについて、コメントしていますので、それを把握して適宜改善していただくことが望めます。それによって論文がブラッシュアップされていくと考えています。査読結果がどうであったかが査読通知に書かれていますので、それをお読み頂き対応して下さい。

**⑯ 査読者の意見に従えない場合はどうするのですか？**

査読者は、投稿者の論文をより良い論文にしていく立場で意見を述べていますが、あくまでも投稿者の意見が論文の主体となります。投稿者の考えを述べたうえで、進めて下さい。どうして従えないのか、ご自身の意見を査読者への修正報告の一環として回答してください。査読者とのやりとりが、査読制度の命なのです。査読者は2名いますので、両者間でのやりとりもあり、きちんと投稿者の意見は尊重されるはずですが、査読者間で不一致に至ったときのみ、委員会が間に入り、対処いたします。

**⑰ 論文が完成したらどこに提出するのですか？**

論文受付は、論文審査委員会にて、年2回の受付（締切）期間を設けていますので、本部の論文審査委員会あてに、「論文在中」と明記のうえお送りください。

**⑱ 会員の論文投稿に関して、論文審査委員会はどのように関わっているのですか？**

論文審査委員会は、投稿論文の審査を主たる役割とし、論文の受付・査読に関わる事務作業・論文集の編集に関わる作業を中心として関わっています。基本的に、論文査読そのものには関わりません。